

自閉症支援における情動共有の意義

串崎真志・田中友梨

1 はじめに

自閉症の障害には、決まったパターンや特定の物に固執する同一性の保持、パニック時に示す自傷・他傷行為など、さまざまな特異的行動のほか、主な症状として、他者とのコミュニケーションの困難がある。その原因は明らかではないが、情動に関わる脳の問題が指摘され、それが情動・認知・学習といった機能に影響を与えるといわれている（トレヴァーセンら、2005）。また、情動共有の基盤の脆弱さは、他者に対するアタッチメント（愛着）の形成を困難にしやすく、通常なら自然に行われるはずの養育者とのコミュニケーションや、それによって得られる心地よさ・安心感を経験しにくくするという（小林、2000）。このような要因が、のちの社会性の発達を制限すると考えられる。

自閉症児のコミュニケーションの難しさは、他者と情動共有しにくいために、自己表現がむずかしいだけでなく、その表現を周囲もなかなか理解しがたいという、二重の障壁に起因するのだろう。こうして、コミュニケーションへの動機づけは、自閉症児と周囲の双方において減少してしまう。しかし、安心できる他者の前では、自閉症児もアタッチメントを示すことから（Sigman & Ungerer, 1984）、その状態が変化する可能性も十分あると思われる。

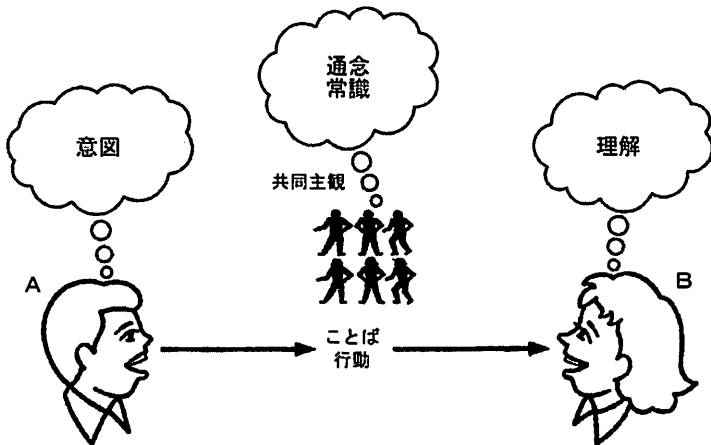
このような観点から、近年、自閉症児の社会性障害や情動共有を促す介入に、注目が集まっている（黒田、2007；吉井・長崎、2002）。本論文では、公刊された事例を比較、検討しながら、自閉症支援における情動共有の意

義について考察したい。

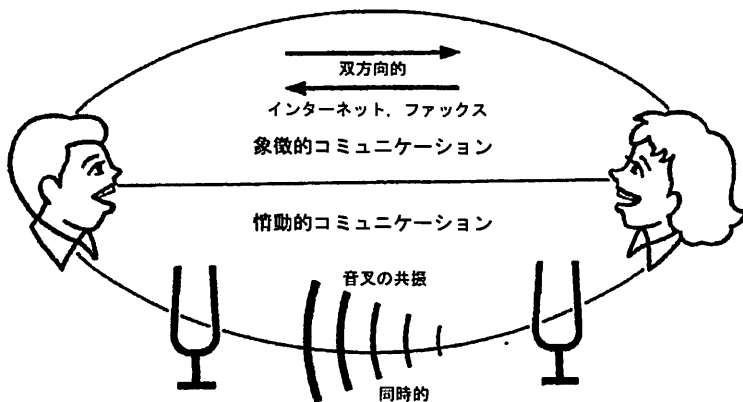
2 自閉症とコミュニケーション

まず、小林（2000）を参考に、一般的なコミュニケーションの定義や特徴について述べ、自閉症児における問題を整理しておこう。コミュニケーションにはさまざまな定義があるが、二者以上が何らかの媒体を通してメッセージを伝え合い、共有し合うという点でおおむね共通する。つまり、AがBに何かを伝えたい、わかってもらいたいという気持ち（意図）を抱くと、Aはなんらかの言動（ことばや行動）を起こし、その言動をBは受け止めて意味を理解し、Aに向けて発信する（資料1参照）。そのような一連の過程をコミュニケーションと考えておく。

ところが、Aの心に生じたコミュニケーションの意図と、Aの実際に発した言動との間には、しばしばずれが生じる。このようなずれが深刻な問題にならないのは、一方の情動（快／不快、喜／怒、哀／楽など）が他方



資料1 二者間のコミュニケーションの構造
(小林隆児「自閉症の関係障害臨床」p13より引用)



資料2 コミュニケーションの二重構造

(小林隆児「自閉症の関係障害臨床」p12より引用)

に共振し、両者がそれを同時的に分かち合っているためである。小林(2000)にならえば、このような情動共有は、情報のやりとりを目的としたコミュニケーションにおいても生じている(資料2参照)。1で述べたように、自閉症児はおそらく、情動のコントロールが生得的に困難なために、他者との「情動的コミュニケーション」がうまくいかず、自動的に、その上位水準である情報のやりとり(象徴的コミュニケーション)も阻害されると考えられる。

3 自閉症児のコミュニケーションに関する事例の分析

2で述べたコミュニケーションの定義と自閉症に見られる問題をふまえ、コミュニケーションに向上が認められた自閉症児の事例報告を通して、その改善に有効と思われる介入方法を検討する。

試みに、すでに公刊されているいくつかの文献から、コミュニケーションに問題のある自閉症児の事例報告を任意に10例選び(注)、介入前の問

題行動，介入前の対人行動，介入方法，介入媒体について，表1にまとめた。また，それぞれの介入によって，対人行動が変化したか，問題行動が改善したか，家庭等他の場面に般化したかについて，表2に示した。表出

表1 コミュニケーションに対する介入の事例

事例	性別	年齢	介入前の問題行動	介入前の対人行動	介入方法	介入媒体
A	女	5;11	視線回避/一人遊び/常同/他害	クレーン/身ぶり/他害	遊び	身体接触
B	男	7;3	固執/多動/痲癩/他害	他害	動作法	身体接触
C	男	10;	感覚過敏/パニック	他害	VOCA	VOCA
D	男	18;	衝動/痲癩	痲癩	構造化/視覚支援	スケジュール表/文字カード
E	女	4;11	他動/パニック	パニック	動作法	身体接触
F	男	4;9	視線回避/一人遊び/興味限定/痲癩/他害	クレーン/痲癩/他害	遊び/抱っこ	身体接触
G	男	13;	感覚過敏/痲癩	身ぶり/他害	役割交代	パソコン
H	男	8;9	自発性欠如	言語(数語)/絵カード	視覚支援	コミュニケーションブック
I	男	9;	痲癩/他害	言語/他害	心情理解場面	絵本
J	男	7;7	自発性欠如	クレーン	共同注意場面	日用品

表2 コミュニケーションに対する介入の結果

事例	対人行動の変化	問題の改善	要求の表出	感情の表出	般化
A	アイコンタクト/身ぶり/模倣	あり	あり	あり	あり
B	模倣/集団への参加	あり	あり	あり	あり
C	模倣/集団への参加	あり	あり	あり	あり
D	視覚的媒体の使用	あり	あり		
E	模倣	あり	あり	あり	あり
F	アイコンタクト/模倣	あり	あり	あり	あり
G	視覚的媒体の使用				
H	視覚的媒体の使用	あり	あり		あり
I	視覚的媒体の使用				
J	アイコンタクト				

注：空欄は事例報告に記述がなかったことを示す

された身ぶりや言語については、情報のやりとり（象徴的コミュニケーション）なのか、気持ちのやりとり（情動的コミュニケーション）なのかを区別するために、要求と感情という二つのカテゴリで整理した。なお、記述から判断しがたい場合は、多少恣意的だが、筆者らの理解で整理した。

4 結果

まず、10例のすべてに対人行動の変化が見られ、それぞれの媒体を介したコミュニケーション行動が可能となった。感情の表出が見られた5例については（事例ABCEF）、介入によって痙攣やパニックが改善し、家庭など他の場面における般化もあった。この5例は、コミュニケーションの媒体として、本児の好きな遊び、身体接触、VOCAを用いていた。一方、感情の表出に言及されていなかった5例も（事例DGHJ）、痙攣や自発的行動の欠如が改善し（DH）、視覚的な媒体を用いた要求の表出が可能になったが（H）、家庭など他の場面における般化は（Hを除いて）記載されていなかった。以上のことから、少なくとも感情の表出（情動的コミュニケーション）に焦点を当てた介入が、問題行動の減少や、家庭等における般化につながる可能性が示唆された。

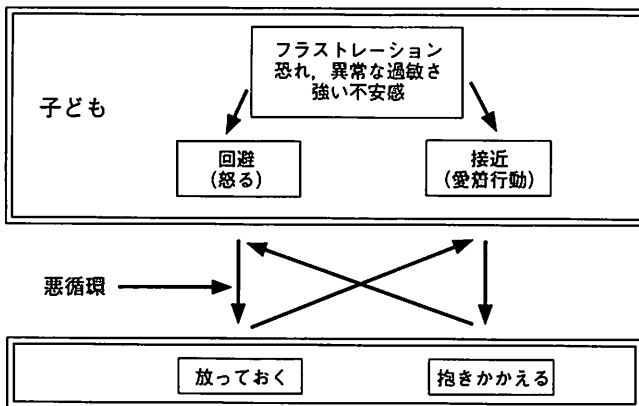
5 考察

このことを、アタッチメント（愛着）形成の観点から考察しよう。例えば、乳児が不快感を表して泣いたとき、母親は母乳を与えたり、オムツを替えるだけでなく、抱いて体を揺らしたり、子守唄を歌ったりして、乳児の興奮を鎮めようとする。ワロン（1983）の情動理論にならうと、このような活動も原初の情動的コミュニケーションといえるだろう。最近の乳児研究では、生後2～3か月の乳児が、洗練された同期性、双方向性、表現の相補性によって、母親とコミュニケーションしていることが知られている

(トレヴァーセンら, 2005)。

小林 (2000) によれば, 接近・回避動因的な葛藤状態に陥りやすい子どもは, 強い欲求不満・恐れ・不安感を抱きやすい傾向にある。回避欲求が非常に強いために, 接近行動を起こしても, いざ親から抱きかかえられそうになると回避行動が誘発され, さらに回避行動を起こして親から放置されると, 接近行動が誘発されるという悪循環を繰り返す。こうして, 親子間のアタッチメントが成立しがたい状態になるという。とくに自閉症児は, 他者に対するアタッチメントが困難なために, 物に定位して情動の安定を図る。それが同一性の保持, 痲癩・パニックの状態につながると考えられる。

自閉症児は, 象徴遊びは不得手であっても, 感覚運動遊びは障害されていないことが報告されてきた (Baron-Cohen, 1987; 井上, 2005; Sigman & Ungerer, 1984)。これを利用して, 高橋・伊藤 (2006) は, 子どもの身体感覚に働きかけるくすぐり遊びやゆさぶり遊びなどを, 情動的交流遊びとしている。別府 (1991) も, ゆさぶり遊びを通して, 快的情動をもたらした療育者とのあいだに愛着関係が形成され, その後, 外界への積極性が



資料3 接近・回避動因的葛藤の悪循環

(小林隆児「自閉症の関係障害臨床」p18より引用)

増したことを報告した。情動共有やアタッチメントの観点から考えると、彼らの接近・回避的な葛藤を理解しつつ、感覚運動遊びや身体的なアプローチが、介入のポイントになるかもしれない。

6 まとめ

本論文では、小林（2000）やトレヴァーセンら（2005）の自閉症論をもとに、公刊された事例を比較しながら、情動共有を促す介入方法について検討した。その結果、身体接触や遊びなど、情動を刺激するような媒体を用いることで、感情の表出が見られた。感情を適切な形で表せるようになると、問題行動が減少し、他の場面における般化も増え、アタッチメントの形成が示唆された。例えば身体接触を通して、緊張状態を自分で弛緩し、柔軟な行動がとれるようになったり、好きな遊びを通して表現が豊かになり、積極的な姿勢が見られるようになった。あるいは、VOCAを用いることで、その場その場に応じた言葉を自ら選んで発することが可能になった。このように、情動共有を中心とした遊びの意義を指摘した報告は他にもある（伊藤, 1998；意東, 1997；瀬島, 1998；三宅, 2000；神園, 2000）。

本論文の問題点として、公刊された事例報告を任意に選んで検討したため、子どもたちの年齢も、発達検査で測定された能力も、介入期間もさまざまであった。また、自閉症と一言で言っても、彼らの状態や問題行動は多様であり、必然的に、さまざまな介入やアプローチが必要になる。したがって本論文は、情動共有の意義だけを確実に説くものではないが、現場における実践のひとつの示唆になれば幸いである。

注

各事例の出典は次の通りであった。事例A：意東・阿部・田口（2006）、事例B：今野（1990）、事例C：岡（2005）、事例D：服巻・野口（2005）、事例E：今野（1990）、事例F：小林（2000）、事例G：田実（2003）、事例H：福村・藤野（2007）、事例I：田実（2005）、事例J：田村・鶴巻（2001）

謝辞

資料の整理にあたり小島美和さん（心理学研究科前期課程）の協力を得ました。記して感謝いたします。

文献

- Baron-Cohen, S. (1987). Autism and symbolic play. *British Journal of Developmental Psychology*, 5, 139-148.
- 別府哲 (1991) 自閉性障害児の発達と指導：愛着対象の形成、遊び、自我の発生との関連による事例検討 岐阜大学教育学部研究報告（人文科学），39，117-134.
- 福村岳代・藤野博 (2007) PECSによる自閉症児の自発的な要求伝達行動の獲得と般化：養護学校における実践研究 東京学芸大学紀要（総合教育科学系），58，339-348.
- 服巻繁・野口幸弘 (2005) 自閉症青年の衝動的行動の改善における先行刺激操作と結果操作による介入の検討 特殊教育学研究，43(2)，131-138.
- 井上洋平 (2005) 自閉症児に対するふり遊び研究の成果と課題 立命館人間科学研究，8，29-40.
- 意東純子 (1997) 発達障害児に対する歌遊びの事例研究 特殊教育研究施設研究生研究報告（東京学芸大学），1，9-16.
- 意東純子・阿部真澄・田口憲司 (2006) 表出性コミュニケーションの力の向上を目指して：身振りサインや視線などによって要求と援助を伝える力に視点を当てて 筑波大学特別支援教育研究，1，27-36.
- 伊藤良子 (1998) 障害児と健常児における遊びとコミュニケーションの発達 風間書房
- 神園幸郎 (2000) 自閉症児における愛着の形成過程：母親以外の特定の他者との関係において 琉球大学教育学部障害児教育実践センター紀要，2，1-16.
- 小林隆児 (2000) 自閉症の関係障害臨床 ミネルヴァ書房
- 今野義孝 (1990) 障害児の発達を促す動作法 学苑社
- 黒田吉高 (2007) 自閉症の社会性障害の研究の発展を期待して 障害者問題研究，34(4)，241.
- 三宅康将 (2000) 情動的交流遊びを通じたコミュニケーションの発達：発達障害児の事例研究より 特殊教育研究施設研究生研究報告（東京学芸大学），4，1-7.
- 岡潔 (2005) 自閉症のある子どもへのシンボル・VOCAを使ったコミュニケーション支援 発達の遅れと教育（日本文化科学社），574，13-15.
- 瀬島加代子 (1998) 発達障害児に対するコミュニケーション指導：ふざけ合い遊びを通して 特殊教育研究施設研究生研究報告（東京学芸大学），2，1-10.
- Sigman, M., & Ungerer, J. A. (1984). Attachment behaviours in autistic children. *Journal*

of Autism and Developmental Disorders, 14 (3), 231-244.

- 田実潔 (2003) 発語のない自閉症児のコミュニケーション支援の実践：パソコンを使った相互言語行動の獲得をめざして 発達障害支援システム学研究, 3(1), 1-7.
- 田実潔 (2005) 軽度自閉症児に対する他者の心情理解と表現についての実践研究：絵本を用いた表現言語獲得指導事例 北星学園大学社会福祉学部北星論集, 42, 117-125.
- 高橋範子・伊藤良子 (2006) 学齢期自閉症児における対人的遊びの発達過程に関する研究 東京学芸大学教育実践研究支援センター紀要, 2, 125-134.
- 田村竜生・鶴巻正子 (2001) 無発語自閉症児におけるアイコンタクトの形成 福島大学教育実践研究紀要, 40, 9-16.
- トレヴァーセン、エイケン、パパーディ、ロバーツ、中野茂・伊藤良子・近藤清美監訳 (2005) 自閉症の子どもたち：間主観性の発達心理学からのアプローチ ミネルヴァ書房 (Trevanthen, C., Aitken, K., Papoudi, D., & Robarts, J. (1998). *Children with autism: Diagnosis and interventions to meet their needs*, 2nd edition. Jessica Kingsley)
- 吉井勘人・長崎勤 (2002) 自閉症児に対する相互的コミュニケーション指導：共同行為フォーマットと情動共有の成立をめざして 心身障害学研究 (筑波大学心身障害学系), 26, 81-91.
- ワロン、波多野完治監訳 (1983) ワロン選集 大月書店 (Wallon, H. (1976). *Lecture d'Henri Wallon: Choix de texts*. Paris: Editions Sociales)